



THE Y'S MEN'S CLUB OF SENDAI HIROSEGAWA

仙台広瀬川ワイズメンズクラブ

2016年3月号ブリテン 通算第58号 2016.3.16



事務所 〒980-0822 仙台市青葉区立町9-7 仙台YMCA内

TEL: 022-222-7533 FAX 022-222-2952

Email: pro-2ty@xui.biglobe.ne.jp: 書記 門脇 秀知

ブリテン: <http://ys-east.jimdo.com/bulletin/sendaihirosegawa/>

第1例会: 毎月第3水曜日・第2例会: 毎月第1水曜日 仙台YMCA 18:45

2015-2016年度 主題 (Theme)

国際会長	Wichian Boonmapajorn (タイ) 「信念のあるミッション」
アジア会長	Edward K. W. Ong (シンガポール) 「愛をもって奉仕をしよう」
東日本区理事	渡辺 隆 (甲府) 「原点に立って、未来へステップ」
北東部部長	中川典幸 (仙台) 「今と原点を融合して未来へ」 - 楽しく改革・笑って行動 -
クラブ会長	佐藤善人 「5年目に向けて」 - 地域奉仕活動4年を振り返り、前へ -

2015~2016年度 クラブ役員

会長	佐藤 善人	地域奉仕	阿部 松男	ブリテン	本野 日出子
副会長	加藤 研	会員増強	村井 伸夫	直前会長	門脇 秀知
書記	門脇 秀知	国際交流	佐藤 剛	担当主事	佐藤 健吾
会計	高篠 伸子	ドライバー	菅野 健	相談役	伊勢 文夫
監査	吉田 俊一	メネット会	松本 京子		

今月の聖句

吉田 俊一

「ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。」

ヨハネによる福音書 19章 16節



「揚がれ! 希望の凧 in 仙台」(3月6日 仙台 広瀬川河川敷 牛越橋運動公園)

2月第1例会報告

在籍者	17名	出席者	8名	メイキャップ	3名	出席率	64%
メネット	名	ゲスト・ビジター	名	ニコニコ			8000円

東日本大震災発生から5年を迎え —ワイズメンズクラブと共に—

仙台YMCA総主事 村井 伸夫
(仙台広瀬川クラブ会員)

2011年3月11日に発生した東日本大震災及び福島第一原発事故から5年の時が過ぎました。

この大震災による死者は2016年3月8日現在で宮城県・岩手県・福島県の被災3県だけでも15,894人、行方不明者は2,562人となっており、2016年2月12日現在の全国避難者数は全国47都道府県の1,139の市区町村へ約174,000人であると公表されています。

過去に例を見ない大災害は、家族や友人を失い、思い出と故郷をも失い、未だに復興への道半ばの中で、明日の希望を失ったままの方々が多くいることは周知のことです。

発生から現在まで、私ども仙台YMCAは大震災被災者支援仙台3クラブ実行委員会との協働をもって、限られた小さな地域と本当にわずかな被災者の方々への支援活動を続けてまいりました。

申し上げるまでもなく、それを可能としたのは全国にあるYMCA及びワイズメンズクラブ東・西日本区からのご指導とご支援によるところが大であり、また、被災地の行政機関及び社会福祉協議会並びに教育委員会、大勢のボランティアからのご理解とご協力があったのものでした。

今思えば、YMCAを頼って避難してきた方々のために、また津波被害の被災者の方々のために、自らが被災者であるにも係わらず献身的に奉仕の業に携わってくださった在仙3ワイズメンズクラブのみなさまには、ただただ頭が下がる思いで一杯です。

大震災発生当日からの避難所運営、
被災地への物資支援、
高齢者及び子どもたちのケア活動、
被災地地元産業復興支援、
仙台市ボランティアセンター運営支援、
全国からのボランティア受入、
仮設住宅訪問ケア活動、
仮設住宅主催行事支援、
被災地情報の発信、
被災地視察の受入、
津波教え石設置事業等は、気仙沼市・南三陸町・
石巻市・東松島市・多賀城市・仙台市・岩沼市・

名取市・亶理町・山元町・白石市において実施されてまいりました。

この場をおかりして、私ども仙台YMCA東日本大震災支援対策事業にご尽力を賜りましたすべてのみなさまに、心底より厚く感謝を申し上げます。

仙台YMCAは来る2016年度も、東日本大震災支援対策室を継続し被災者支援活動及び被災地の現状と課題の情報提供に努めてまいります。

さらに、本年度まで東京YMCAとともに運営を担ってまいりました「YMCA石巻センター」は、本年度末をもって東京YMCAが活動を終了した後も、仙台YMCAと設立を目指している石巻広域ワイズメンズクラブ（仮称）で当面1年間運営を継続してまいります。

最後となりましたが、私どもの歩みの上に、常に御神さまのお守りとお導きがあったことを覚え、これからは御神さまの御心にかなった働きを進める所存であります。

これまでのワイズメンズクラブのお働きに心より感謝と尊敬を申し上げますとともに、これからは変わらずにご指導とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。



「名振地区津波の石碑感謝会」で感謝状を受ける

村井氏総主事



【2月第1例会報告】

日時：2月17日(水) 19:00~20:45

場所：仙台 YMCA 会議室

出席者：伊勢、及川、門脇、佐藤剛、佐藤善人、本野、松本、吉田、

<協議・連絡事項>

- ① 使用済み切手の整理を行う。区への報告は次期とする
- ② 仙台 YMCA 全体研修会・110周年記念コンサート(別掲)
- ③ 第19回東日本区大会開催案内(各自に郵送)
ニコニコ:8000円

【3月第2例会報告】

日時：3月2日(水) 18:45~20:30

場所：仙台 YMCA 会議室

出席者：阿部、伊勢、及川、門脇、菅野、佐藤剛、佐藤善人、清水川、松本、吉田

<協議・連絡事項>

- ① (仮)石巻広域ワイズメンズ設立総会(4/2・土)
- ② 「揚がれ!希望の凧2016 In 仙台」(3/6・日)
- ③ 2015被災地小学生サッカー交流&ユースリーダーアクトの最終報告書配布
- ④ ボランティア感謝祭開催3/11・金)

「名振 津波の石碑」除幕式報告

石巻市雄勝町名振地区に大津波が襲い、9名の方がなくなり家屋60軒が全壊流失、高台の16軒と寺と神社だけが残った。残った寺と神社が住民の支えとなって復興へ歩みだした。千年に一度といわれる大災害を未来に伝えるとともに命を伝えた人たちの記録として石碑が建立された。

2014年3月から計画され2月27日に除幕式を迎えた。

東京むかでクラブ城井廣邦ワイズがプロデュースし、彫刻は大塚亮治、碑文は永沼淳子、書は永井あゆみ氏が担当した。仙台YMCA・YMCA石巻センター、ワイズメンズクラブ東日本区、東京西・京都ウエスト・大阪西・神戸西・熊本にし・東京むかで・仙台・仙台青葉城・仙台広瀬川クラブが協力した。

(菅野)



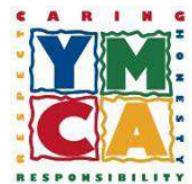
「2015年度仙台 YMCA 全体会議」

冬晴れで気温も7℃と、2月にしては寒さの緩んだ11日に「Yとワイズの理解を深める機会」として「2015年度仙台 YMCA 全体会議」が県民会館で行われました。

開会礼拝に始まり、専門職管理者研修会参加者からの報告、ワイズタイム「仙台 YMCA へ求める変革」(ワイズメンからの提案)、昼食をはさみ、講演「仙台 YMCA 運動の担い手は誰なのか?」(講師 前北海道 YMCA 総主事 宮崎善昭氏)、講演を基調とする分団討議、まとめ・閉会礼拝と夕刻まで、貴重な時間をワイズメンと160名余の職員で共有しました。

当日は第2部として「仙台 YMCA 会員のためのシャンソンコンサート」も企画されていまして、ワイズメンの多くはその準備に追われ「全体会議」へ参加できる時間も僅かであったことが、残念でした。ただ「研修会参加者報告」でとても素敵なお話を聞くことが出来ました。「いじめ」をテーマにした議論の中で、研修参加者が自分の担当するお子さんから言われた言葉だそうです。「僕には敵がいなくなったよ。最強になったよ。」ドキリとする言葉ですよ。まさか力づくで友達を抑え込んだのでは?とも考えられます。でもその子はどうしたか…「みんなと友達になったのさ!」正に大正解、これ以上の答えは誰にも見つけられません。素晴らしい言葉を知ることが出来ました。感謝です。

夕刻からは市民活動サポートセンターで「仙台 YMCA 会員のためのシャンソンコンサート」が開演されました。ホールは158名の観客で埋め尽くされ、立見の方も。中には東京から来られたファンの方もおり、シャンソン歌手「井関真人さん」の人気の凄さにビックリしました。プログラムは「いつも青春」と題し、アンコールを含めて全15曲の熱唱でしたが、曲の合間の軽妙な会話と洒落たユーモアは、その瞬間シャンデリゼの居酒屋にいるような錯覚に囚われました。舞台上躍動する「井関さん」を見て自分と同年代の方と勝手に思い込んでいたら、なんと10歳も年上の69歳とのこと。2度ビックリしました。私にとっては、心を開放する術を経験することが出来たことは、何よりの収穫でした。(文責 加藤)



仙台YMCAーバンコクYMCA 30周年親睦記念式典

2月23日、タイ農村キャンプワークが始まって30回を迎え、タイ王国北部のバンコクYMCAパヤオセンターで記念式典が行われました。成田からバンコク乗り換えでチェンライ空港へ、さらに自動車で2時間、仙台から16時間かけてパヤオセンターに着きました。仙台YMCAとバンコクYMCAは仙台YMCAボランティアであった浅利友重・志津子夫妻の訪タイから友好を築き、1986年に第1回の農村キャンプワークが実施され今日まで続いております。センターで行われた式典にはバンコクYMCAのDanuch理事長(写真)、来仙されたことのあるSuwanさんNoiさんを含め多くの役員・職員の方が参加されました。記念礼拝に続き祝会へと進み、それぞれの年代の懐かし顔ぶれが映し出されました。そして、子供たちによる民族舞踊を見せていただきました。

翌24日は、今回のワーク地でもあるメーターチャン村に向かいました。トラックの荷台に乗っての訪問でしたが、自然を満喫しました。同村にはかつてワークで建造した給水施設が活躍していました。(写真)24日は「いじめのない世界をめざそう2016ピンクシャツデー」、途中の街で全員がピンクシャツを購入しました。メーターチャン村でも村民の皆さんの大歓迎を受けました。(いずれも写真) 式典・ワーク参加者5名は無事帰国しました。

バンコクYMCAパヤオセンター

子どもとその家族を人身売買および商業的性的搾取から守るための生活質向上プログラムを行っています。タイ北部のパヤオ県は目立った産業もなく国内でも貧しい県であり、人身取引が多い地区です。センターは女性や子どもを守るため1993年からプロジェクトを立ち上げ、8~18歳の子ども40名が保護され生活しています。子どもたちは明るく礼儀正しく、祝会で名乗った「ケンちゃん」という名前を覚えてくれ、お別れの朝に「ケンちゃん」と大きな声で呼びかけてくれた少年のことは忘れないでしょう。

菅野健

これからもパヤオセンターを支援してまいりましょう。

記念式聖句 「神にとって不可能なことは一つもありません」 ルカ 1:37

